

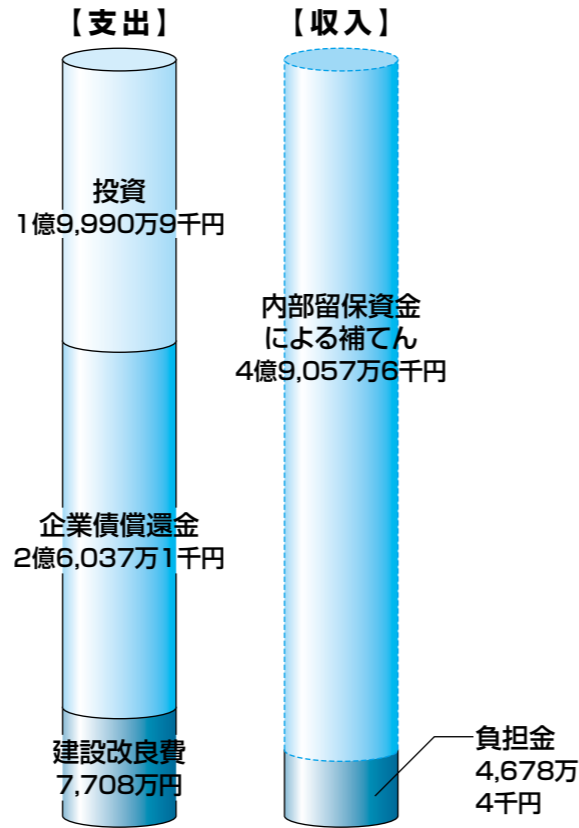
公営企業水道事業の平成19年度決算報告

用語解説

- **収益的収支** 水道料金による収入と水を作ったり、家庭に送るための維持管理経費などを中心とした営業活動の収支
- **水道料金** 使用者の皆さんに支払っていただいた水道料金
- **受託工事収益** 給水装置の新設または修繕などの工事受託による収益
- **人件費** 水道事業所で働く職員の給料など
- **受水費** 兵庫県から水道水を買った費用。播磨町は約9割を井戸水でまかっていますが、井戸の延命を計り、また災害などの緊急時に備えるため、一部を兵庫県から購入しています
- **減価償却費** 施設の資産価値の減少分。将来、老朽化した施設を更新するための財源となります
- **支払利息** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の利息
- **受託工事費** 給水装置の新設または修繕などの受託工事に要する費用
- **その他** 水をつくるために必要な薬品や動力費、集金や検針、水道管の修理や古くなったメーターの交換などにかかった費用
- **資本的収支** 古くなった水道施設の改良や新しい施設をつくるために必要な資金の収支
- **負担金** 建設または改良工事のための工事負担金や新たに水道水を使う時に支払っていただいた加入分担金や給水装置負担金など
- **内部留保資金による補てん** 減価償却費等資産を再構築するために積み立ててきた資金
- **建設改良費** 古くなった水道管を付け替えたり、新しく水道管を延ばしたりするのに要した経費
- **企業債償還金** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の元金返済分

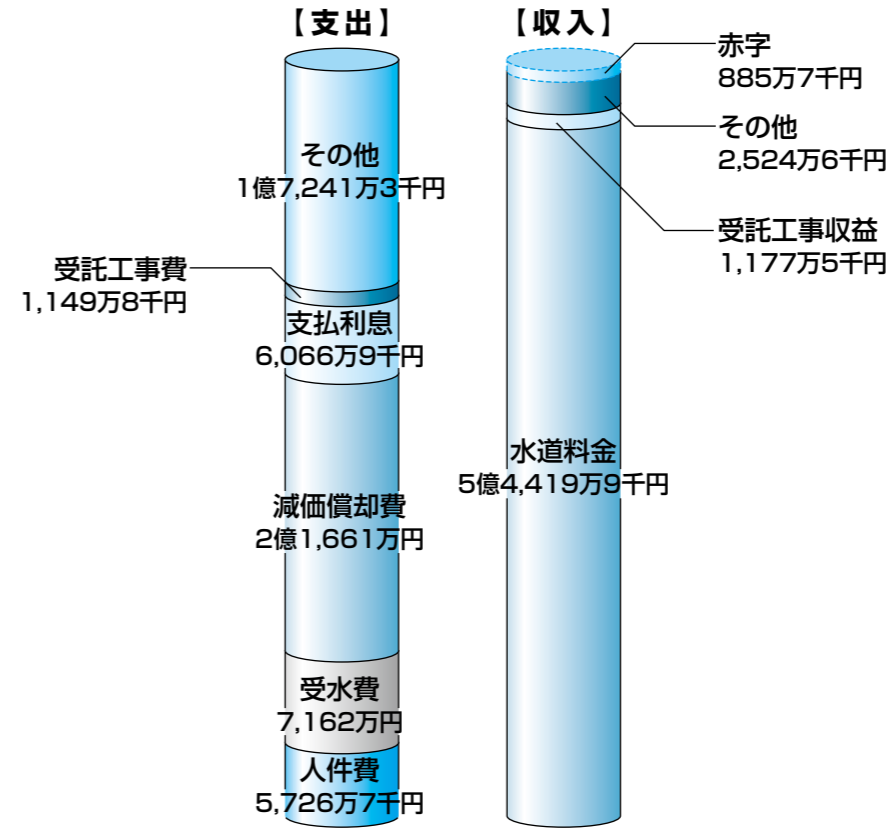
(税込み) 資本的収支

古くなった水道施設の改良や新しい施設を作るために必要な資金の収支



(税抜き) 収益的収支

水道料金による収入と、水を作ったり家庭に送ったりするための維持管理経費などを中心とした営業活動の収支



水道事業は「独立採算制」水道事業は、「地方公営企業」として法律により税金を使わずに、使用者の皆さんからいただく水道料金により運営するように定められています。これを「独立採算制」といい、税金や国などの補助金などで運営される町の会計とは全く違った運営形態となっています。また、会計方式は企業会計方式をとっており、収益的収支と資本的収支の2本立てで会計処理し、民間企業のように財務諸表と呼ばれる「損益計算書」や「貸借対照表」を作成しています。

▼問い合わせ 水道グループ管理チーム ☎079(435)2379

水道事業では、住民サービスの向上と、業務におけるコスト削減を徹底し赤字の解消を目指しているところでありますが、収益の根幹である給水収益は、節水型社会への移行が定着しつつあるため、今後増加することが見込めません。限られた収益の中、業務コストの削減・見直し、計画的な水道施設修繕・更新を行うことで、費用を削減し、安易な水道料金の値上げをすることのないよう努力します。

主な事業予定は次の通りです。

《今後の事業展望》

- ① **鉛管対策事業**
町内全域で約2650戸に残る鉛管を平成18年度よりおむね10カ年で順次取り替えを行っています。平成19年度事業では28戸の取り替えを行いました。
- ② **第3浄水場施設の更新**
水道水の安定供給を目指して、老朽化した浄水場施設の更新、充実を図っています。平成19年度においては沈殿池の耐震補強工事に着手し、平成20年度完了予定です。

資本的収支

収入は、下水道布設工事に伴う工事負担金、水道を新規に開設する際に必要となる加入分担金や給水装置負担金など合計で前年比4698万4千円減少し、4678万4千円になりました。

支出については、下水道布設工事に合わせて、老朽管の布設替・改良、第3浄水場施設の改修などを行い、建設改良費は前年比1916万1千

円増加し7708万円となりました。

また、企業債の元金償還分として、2億6037万1千円支出し、本年度については長期的な投資としまして1億9990万円の債券を購入しております。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額4億9057万6千円は、内部留保資金で補てんしました。

収益的収支

主な収入は、受託工事収益が1177万5千円で前年比732万3千円の増額、収入の柱である水道料金収入は5億4419万9千円で前年比50万5千円の増額となり、総事業収入は5億8122万円、前年比1094万8千円の増額となりました。

主な支出は、借入金の利息が前年比1151万6千円減

少し、6066万9千円になりました。その他、受託工事費が前年比788万8千円増の1149万8千円に増加しております。その他の経常経費については徹底した削減を行なった効果もあり、支出総額で前年比1693万1千円の減少の5億9007万7千円となりました。

よって、平成19年度収支では、885万7千円の純損失（赤字）を計上しました。

給水原価と供給単価

給水原価とは、水1m³を作るのに必要な費用のことで、平成19年度決算では149.36円になりました。

供給単価とは、皆さんからいただいている水道料金の1m³当たりの平均金額のことで、同決算では141.03円となり、給水原価が供給単価を約8円上回りました。つまり現状では、水1m³給水するごとに8円の赤字になっています。

水道水1m³当たりの給水原価の内訳

